

ホームページ担当者から

「どうもこんにちは、特定非営利活動法人〈源氏物語電子資料館〉広報担当です」というあいさつでおなじみの、広報担当・中村です。

法人を作るとなれば必要なのはホームページと言うことで、構成内容を決めるまでは難儀しました。代表理事の提案を現実的にするにはどうすればいいのかと、非常に頭を悩ませた記憶があります。しかし、現在はある程度形も整い、定期的な情報の管理や「写本を読む会」などのイベントの宣伝などを行っています。

ネットの「誰でもアクセスが可能だ」という特性を生かして、ブログを始めとして、Facebook や Twitter でも、たくさんの人に情報をお伝えできればと思っています。宣伝やイベント事があると情報をブログにまとめて皆様の目に触れるようにするわけですが、その時は客観的に情報をお伝えできるようにと気を使っています。

ただ、ネットのメリットでありデメリットでもあるのは、自らが積極的に検索をしていかなければ欲しい情報にたどりつけないということです。当法人のメインの事業内容である写本の翻字は、研究者はもちろん一般の方々にも、もっと知っていただきたいのです。そのためには、どのような情報発信がいいだろう……宣伝の方法も色々と模索しています。

今後のひそかな目論見は、代表理事に「運営カレンダー」を作成してもらい、それをホームページ上に公開することです。現在、私たち法人がどのような活動をしていて、いつ何が予定されているのかということを明らかにして、見に来てくださった皆様により分かりやすい広報活動が出来ればと思っています。

現在、渋谷栄一氏より委譲されました『源氏物語の世界』を編集中です。

これからも、よろしくご協力致します。 (広報担当・中村美貴)



(上賀茂神社・紫式部歌碑)

特定非営利活動法人 〈源氏物語電子資料館〉

ニュースレター 第2号

(平成 27 年 1 月 20 日発行)

ご挨拶

代表理事 伊藤鉄也



みなさま、お変わりなく新年をお迎えのことと思います。

おかげさまで、NPO法人〈源氏物語電子資料館〉も2年目の活動を順調に遂行し、3年目の歩みを刻もうとしていることを、ここにご報告いたします。

本法人の事務局周辺は、下鴨神社、府立大学、植物園、総合資料館、京都コンサートホールなど、伝統と文化の発信拠点となっています。さらにこの地域では今、博物館・図書館・文書館の各機能を統合した MLA 複合館として「新総合資料館 (仮称)」の建設工事が、2016 年の開館を目指して進んでいます。



(工事現場の左奥が植物園、右が京都コンサートホール)

この新しい学術研究のための新資料館構想が進展する中で、私たちのNPO法人〈源氏物語電子資料館〉も独自の存在意義を確立していきたいと思っています。

この〈ニュースレター 第2号〉では、2014 年度の活動報告を中心にまとめました。本法人は、少しずつながらも、確実に一步一步前に進んでいます。まだ小さな組織です。しかし、果たすべき役割は『源氏物語』の基礎資料をデータベースとして構築し、広く活用していただく環境を提供することにあります。その自覚のもと、会員のみなさまのご理解を力にして、さらに活動の場と輪を広げていきたいと思っています。

第3回池田亀鑑賞授賞式

本法人も後援している池田亀鑑賞の授賞式は、6月28日に鳥取県の日南町で開催されました。

今回の授賞作は、須藤圭氏（立命館大学・助教）の『狭衣物語 受容の研究』（新典社、2013年）でした。須藤氏は、地道にコツコツと文献を調査し、手堅い研究手法で成果をまとめられました。

受賞時にはまだ20代という、これからがますます楽しみな研究者です。

今後とも若手への基礎的な資料や情報提供などで、幅広い研究支援をしていきたいと思えます。



鳥取県の日南町で『源氏物語』を読む

第3回池田亀鑑賞授賞式の後、そのまま「第3部 鎌倉時代の『源氏物語』古写本を読んで池田亀鑑を追体験してみよう」という、参加型の体験学習を企画しました。これが、本法人主催の第1回目となるイベントです。ハーバード大学本「蜻蛉」巻の最初のページを、変体仮名といわれる仮名文字で一文字ずつたどりながら読みました。講師は伊藤鉄也が担当しました。

池田亀鑑の生誕の地にふさわしい企画となり、40名の参加がありました。

9月13日には、第2回目となる「鎌倉時代の『源氏物語』古写本を読んで池田亀鑑を追体験してみよう」という企画を実施しました。

当日は、日南町のみなさまに加えて、本法人会員であるノートルダム清心女子大学の原豊二先生とその学生さんたちにも参加していただき、30名でハーバード大学が所蔵する700年前の古写本「須磨」巻を読みました。



池田本プロジェクト始動

八木書店から刊行される〈新善本叢書〉の中に、『源氏物語』では「池田本」が採択されました。下の写真は、八木書店の2015年度カレンダーの夏の部分です。

本法人は、これまでに「池田本」の全52帖（花散里と柏木を欠く）の翻字を終え、校訂本文の作成に入っています。現在読まれている「大島本」は、室町時代に書写された本文を元にして、江戸時代に加筆された本文を組み合わせたものです。

その点、「池田本」は池田亀鑑も『源氏物語大成』の中で「桐壺」巻や「夢浮橋」巻などの底本とした、鎌倉時代の写本を多く含む写本群です。これまでのように「大島本」だけで読むのではなく、「池田本」でも『源氏物語』が読める環境を新しく提供するためのプロジェクトを、今年から始動することになりました。

「池田本」に関する詳細は、『もっと知りたい 池田亀鑑と『源氏物語』第2集』（伊藤鉄也編、新典社、2013年）所収の「伝二条為明筆本源氏物語」（岡嶋偉久子）をご参照ください。



〈池田本に関するプロジェクトの内容〉

- (1) 池田本の翻字データを確認
- (2) 「変体仮名混合版」の作成
- (3) 校訂本文の作成
- (4) 大島本との本文校合資料の作成
- (5) 各巻の詳細な「小見出し」作成
- (6) 諸本とのページ対照表を作成
- (7) 尾州家河内本の校訂本文も同時に作成

本法人への連絡先・ホームページ・ブログ

電子メール：NPO 源氏・事務局【npo.gem.info@icloud.com】

ホームページ【<http://www.eonet.ne.jp/~genjiito/index.html>】

京町家ワックジャパンで『源氏物語』を読む

京都御所の南にある「ワックジャパン」の京町家で、ハーバード大学本「蜻蛉」巻を読み進めています。

変体仮名が読めるようになることを目的とする集まりです。毎回、『源氏物語』にゆかりの和菓子をいただきながらの勉強会です。

これまでに、ハーバード大学本「蜻蛉」巻を6回、『十帖源氏』「須磨」巻の現代語訳を10回、「明石」巻の現代語訳を6回勉強しました。

今春、『十帖源氏』「明石」巻の終了と共に、『源氏物語』の英語訳をテキストにする計画を練っています。



日比谷図書文化館で『源氏物語』を読む

古文書塾「てらこや」という社会人講座が、東京駅に近い日比谷公園の中にある日比谷図書文化館で開講されています。江戸時代の古文書を読む講座の中の1つとして、「[翻字者育成講座] ハーバード大学美術館蔵『源氏物語 蜻蛉』を読む」という鎌倉時代の文字を読む講座を、新たに開設していただきました（隔週木曜 18時半から）。

テキストには『ハーバード大学美術館蔵『源氏物語』「蜻蛉』』を使用し、15名の方々と一緒に変体仮名を読む技術の習得を目指して、1期5回の勉強会を続けています。

今月からは、第2期がスタートしています。講師は、当面は伊藤鉄也が担当します。

「[翻字者育成]」と名乗る講座ということもあり、みなさん熱心に翻字に挑戦しておられます。すでに6名の方が、ご自宅で写本の翻字をなさっています。

わからないところはメールで確認するという、在宅の作業となっています。

翻字データを次世代に確実に伝えていくためには、印刷とは違うデータベースにふさわしい一定のルールに沿った翻字が必要です。その実践編として、翻字のコツと手法の伝承を意識して、仮名の字母を1字ずつ確認しながら進めています。

ハーバード大学本『源氏物語』「蜻蛉」刊行

新典社より『ハーバード大学美術館蔵『源氏物語』「蜻蛉』』（伊藤鉄也編、2014年）を刊行しました。

これは、一昨年秋の『ハーバード大学美術館蔵『源氏物語』「須磨』』（伊藤鉄也編著、新典社、2013年）に続く姉妹編の2冊目です。

本法人が主催して開催していく、古写本を読む会のテキストとして、今後ともこの2冊を有効に活用していきたいと思っています。



歴博本『源氏物語』「鈴虫」の原本調査終了

ハーバード大学本の「須磨」「蜻蛉」の2巻と兄弟本と見られる「鈴虫」巻が、重要文化財として国立歴史民俗博物館に所蔵されています。先般許可をいただき、熟覧調査を終えました。今春にはハーバード大学本と同じ装幀で、新典社から出版することになっています。

上記3巻に書写されている文字を、平仮名の基になっている漢字（字母）レベルでも翻字し、変体仮名が使用されている実態がわかる資料「変体仮名混合版」を収録する予定です。併せて、字母索引も編集中です。

本法人へのご支援のお誘い

- (1) 正会員 入会金 10,000円（学生は免除） 会費 10,000円/年
- (2) サポート会員 入会金 0円 会費（登録料） 5,000円/年
- (3) 賛助会員 入会金 0円 会費 1口 30,000円/年（1口以上）

※詳細はホームページでご確認ください。

【<http://www.eonet.ne.jp/~genjiito/kouza.pdf>】

※ Facebook と Twitter も展開中。HP からチェックしてください。